

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 1 生徒が将来の夢を明確な目標として堅持し、それに向けて努力を継続できるよう、個別にサポートできる体制づくりに取り組む
- 2 規律正しい生活及び家庭学習の習慣を確立させ、自習室の利用等による自律的学習の強化を図るとともに、主体的に部活動に参加できるバランスのとれた生徒の育成に取り組む
- 3 あいさつ、敬語の使い方等のコミュニケーション能力をさらに向上させるとともに、他人への思いやりある生徒の育成に取り組む
- 4 地域の幼稚園、保育所、小・中学校等の教育資源との連携や、各種の地域活動への参画などを通じた生徒の自尊感情の高まりによる「地域に貢献できる若きリーダーの育成」に取り組む
- 5 国際交流を始めとする生徒・保護者の多様なニーズに応え、さらなる満足度アップを実現する、元気でたくましい生徒があふれる「明るくさわやかな学び舎」「安全・安心の学び舎」づくりに取り組む

### 2 中期的目標

#### 1 さらなる学力の向上及び進路の保証

- (1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。
  - ア グループワークを取り入れることにより、主体的な学びをめざし、協同作業及び討論を行わせ、発表能力を向上させる。
  - イ タブレット端末を含む ICT の活用により生徒の興味を引き出し、教員と生徒がキャッチボールができる授業を行い、授業時間を有効に活用する。
  - ウ 少人数展開や進路別授業、実験・実習の充実により全教科でわかる授業を展開する。
- (2) 個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結び付ける。
  - ア 生徒の進路希望を尊重した選択科目により、主体的に学ぶ意欲を引き出す。
  - イ 取り組みやすい学習課題づくりや小テストの実施などにより、家庭学習の重要性を認識させる。
  - ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。
    - ※生徒向け学校教育自己診断における【授業満足度】（平成 25 年度 54.7%）を平成 28 年度には 70%にする。
    - ※生徒向け学校教育自己診断における【カリキュラム満足度】（平成 25 年度 57.3%）を平成 28 年度には 70%にする。
    - ※国公立大学合格 10 名以上、関関同立合格 100 名（のべ）以上（看護・医療系、公務員等一人一人の目標への指導を含む）

#### 2 キャリア教育のための環境づくり

- (1) 自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。
  - ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、「総合」、LHR の中期的計画及び指導計画を策定する。
  - イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制を整備する。
  - ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。
  - エ 狭山生として必要なルールである「さやまスタンダード」の徹底を図る。
- (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。
  - ア 多様な機会を生かした人権教育を推進する。
- (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。
  - ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団（担任）及び部活動における相談体制を確立する。
  - イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、退部した生徒のフォローに努める。
    - ※生徒向け学校教育自己診断における【学校生活満足度】（平成 25 年度 74.2%）を平成 28 年度には 85%にする。
    - ※生徒向け学校教育自己診断における【相談体制満足度】（平成 25 年度 57.4%）を平成 28 年度には 70%にする。

#### 3 学校改革に向けての盤石な体制づくり

- (1) 教職員による体制づくりに取り組む。
  - ア 新規プロジェクトチームにより、学校の将来像を検討する。
  - イ 事態対処の事例研究により、教員のノウハウを伝承するとともに人材育成を行う。
- (2) PTA、同窓会等活動の活性化に取り組む。
- (3) 学校協議会の提言を具現化する。
  - ※教員向け学校教育自己診断における【学校運営への参画意識】（平成 25 年度 62.7%）を平成 28 年度には 80%にする。
  - ※保護者向け学校教育自己診断における【学校満足度】（平成 25 年度 77.7%）を平成 28 年度には 85%にする。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(全 般) 全般的に満足度が上昇したのは、学校における各種活動が活発化したためと考える。</p> <p>(学習指導等) 授業満足度が上昇したのは、授業改善により多岐にわたる授業が提供されるようになったためと料する。学習環境の整備については、自習室、グローバルルームの活用が進み、満足度が 8 割を超えた。</p> <p>(生徒指導等) 「友好的な人間関係の構築」については、87%と極めて高いが、「教師への相談」は 6 割程度である。学校満足度 75%、行事・部活動への満足度も 70%を超えており、肯定感是一段と高まった。</p> <p>(その他) 「国際交流」に関しては、認識が格段に高まったが、「地域連携」については、活動の割には認識が高まらない。地域への貢献が意識できる工夫が必要である。</p>	<p>第 1 回 (5 月 28 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 3 月の中教審答申より、後期中等教育の質の拡大と向上についての適用が重要</li> <li>2 社会への円滑な移行に向けて、キャリア教育の充実が必要</li> <li>3 新入生と保護者が狭山高校を選んだ理由の 1 位は、両者とも「校風」</li> <li>4 狭山高校の将来像や目標を明確にする必要がある。</li> </ol> <p>第 2 回 (11 月 26 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 狭山高校の HP を見ると、国際交流と PTA の活動がよくわかる。</li> <li>2 「先生が相談に乗ってくれる」という項目に肯定的な意見が多いのは、とてもいい。</li> <li>3 1 年生から 2 年生になる時の意識の低下、肯定感の低下に注意を要する。</li> </ol> <p>第 3 回 (2 月 4 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学入試改革に向けて、現場が間に合うのか心配である。</li> <li>2 広報については、ネット・紙媒体等多方面で対応する必要がある。</li> <li>3 チャレンジテストが始まった中学校の現状をよく見てもらいたい。</li> </ol>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 さらなる学力の向上及び進路の保証	<p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>ア グループワーク導入による協同的学び、発表能力の向上</p> <p>イ ICTの活用による教員と生徒の対話の実現及び授業の効率化</p> <p>ウ 少人数展開、進路別授業等同質集団による授業の質の向上</p> <p>(2) 個々の進路の保証</p>	<p>(授業力の向上)</p> <p>千葉県袖ヶ浦高校情報コミュニケーション科が実践するタブレット端末を用いた主体的な学びのスタイルを参考に、狭山高校の授業に生かす。</p> <p>ア グループワークを取り入れ、少人数で協同作業、討論を行うことにより生徒に自信をつけさせ、自発的な発表の機会を促すとともに発表能力を向上させる。</p> <p>イ タブレット端末を含む ICT を活用することで生徒の興味を引き出し、教員と生徒がキャッチボールしやすい環境をつくる。また、プロジェクター、黒板、プリント等をバランスよく用いて集中力を持続させ、授業時間を有効に活用する。</p> <p>ウ 少人数展開、進路別授業で理解度を向上させる。また、実験・実習を充実させ経験値を上げることで理解度を向上させる。</p> <p>エ 教員同士が授業観察をする期間を設ける。</p> <p>ア 選択科目により主体的学びを引き出す。</p> <p>イ 講習・補習・勉強合宿を充実させる。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【授業満足度60%】 (H25年度54.7%):生徒</p> <p>【カリキュラム満足度60%】 (H25年度57.3%):生徒</p> <p>【ICTの活用度40%】 (H25年度30%):教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特色ある授業力向上事例の視察と報告による校内研修の実施</li> <li>・ 講習や学習イベントへの参加生徒満足度向上(企画ごとの生徒満足度調査・平均80%目標)</li> <li>・ 国公立大学合格:10名以上</li> <li>・ 関関同立合格:100名(のべ)以上</li> <li>・ 看護・医療系、公務員等生徒のニーズによる講習の実施</li> </ul>	<p>(授業力の向上)</p> <p>26年度も引き続き「グループワーク」「ICTの活用」を取入れた授業改善に取り組み、ICTを活用する教員が40%に達する等の成果を得た。(○)</p> <p>授業アンケートの結果は、1学期3.00から2学期3.05に上がり、授業満足度63.4%、カリキュラム満足度65.2%と、昨年度に比べ格段に上昇した。教員の挑戦と努力の成果であると考え。(◎)</p> <p>タブレット端末を用いた授業を行う教員もおり、生徒の主体性をはぐくむ原動力になると考える。(○)</p> <p>生徒から見て様々な形態の授業が経験でき多様性が増した。(○)</p> <p>(3月2日末現在の大学合格状況)</p> <p>国公立大学合格:7名(現5名)</p> <p>関関同立合格:72名</p>
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。</p> <p>ア 「志学」等の中期的計画の策定</p> <p>イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制整備</p> <p>ウ 当面の進路決定に必要なプログラムの準備</p> <p>エ 「さやまスタンダード」の徹底</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>ア 相談体制の明確化及び確立</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>キャリア教育を「生きること、学ぶこと、将来の職業を一体化させること」ととらえ、狭山生に自立・自律した人間として早期に目標を持たせ、将来の生き方を考えさせたい。</p> <p>ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、「総合」、LHRを通じて、生きる意味を考え、将来の生き方を考えさせる。</p> <p>イ 狭山池まつり等の地域活動を通じて、また幼・小・中学校との連携を通じてボランティアの意味を考えさせる。また、国際交流活動を充実させ、グローバルルームの活用を図る。</p> <p>ウ キャリアガイダンス等進路選択に必要なプログラムを準備するとともに、進路指導室、自習室をさらに活用する。</p> <p>エ 狭山生として必要なルール(早起き、挨拶、自転車マナー、敬語、携帯電話、服装等)である「さやまスタンダード」を徹底する。</p> <p>(相談体制づくり等)</p> <p>ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団(担任)及び部活動における相談体制を確立する。</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、スロー・ジョギング等を実施し退部した生徒のフォローに努める。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【キャリア教育満足度75%】 (H25年度69.9%):生徒</p> <p>【地域連携参画意識50%】 (H25年度39.5%):生徒 (H25年度39.1%):保護者</p> <p>【国際交流参画意識60%】 (H25年度52.0%):生徒</p> <p>【相談体制の満足度60%】 (H25年度57.4%):生徒 (H25年度48.5%):保護者</p> <p>【部活動の満足度75%】 (H25年度72.4%):生徒</p> <p>【生徒会活動参画意識60%】 (H25年度52.0%):生徒</p> <p>【行事満足度75%】 (H25年度69.7%):生徒</p> <p>【学校生活満足度80%】 (H25年度74.2%):生徒 (H25年度77.7%):保護者</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>2年生が「総合的学習」とHRを活用しカタリバ、ビブリオバトル、英語暗唱大会等多くの初試みに挑戦し、生き方・学び方等に目を向ける取り組みを実施した。(◎)</p> <p>国際交流では、生徒約300名が台湾の高校生と交流したこと、また、オーストラリアの高校と姉妹校提携したこともあり、国際交流参画意識は58.6%と大きく上昇した。(○)</p> <p>一方、地域連携では、狭山池まつりやクリーン・アクション等多くの活動を行い、大阪狭山市長から善行者表彰を受けたにもかかわらず、参画意識が41.4%と微増にとどまった。(△)</p> <p>部活動満足度71.9%、行事満足度74.5%とおおむね上昇傾向にある。(○)</p> <p>(相談体制づくり等)</p> <p>相談体制の満足度60.0%、学校生活満足度75.0%と、生徒の満足度に加え、保護者の満足度が56.0%、83.5%と格段に上がっており、安全・安心の学び舎として認識されている。(◎)</p>
3 学校改革に向けての盤石な体制づくり	<p>(1) 教職員による体制づくりに取り組む。</p> <p>ア SP委員会(さやまプロジェクト)による学校の将来像の検討</p> <p>イ 事態対処の事例研究により、教員のノウハウの継承及び若手の人材育成</p> <p>(2) PTA,同窓会等活動の活性化に取り組む。</p>	<p>ア SP委員会NEXT(さやまプロジェクト)を再立ち上げし、近い将来の狭山高校のあるべき姿を検討する。</p> <p>イ 生徒指導事案等身近な事例を題材に、特に若手教員を中心に、事態対処の事例研究を行う。</p> <p>PTA及び同窓会との一体化を進め、学校の応援団としての活動の活性化を促進する。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【学校運営への参画意識70%】 (H25年度62.7%):教職員</p> <p>【危機管理意識70%】 (H25年度63.7%):教職員</p> <p>【PTA参画意識60%】 (H25年度55.4%):保護者</p>	<p>教職員の学校運営への参画意識69.6%、危機管理意識71.5%と格段に上昇し、教員間の凝集性が高まりつつあると考える。(○)</p> <p>若手教員に対し、30代の首席が定期的に勉強会を実施し、実践に即した適切な指導に当たっている。(○)</p> <p>PTA役員を中心とするPTA活動が活発化し、保護者のPTA参画意識が65.9%と格段に上昇した。(◎)</p>